

# 11-G ヒサカキ(姫榊)の巨木 ツバキ科ヒサカキ属 Eurya japonica

## ■ヒサカキの巨木評価基準

- A 株周おおむね4m以上、もしくは、おおむね幹周2m以上の単幹ヒサカキの巨木。
- B 株周おおむね2~4m、もしくは、おおむね0.5~2mの単幹ヒサカキの巨木。
- C B評価以下のヒサカキの巨木。

## ■主なヒサカキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	縦山のヒサカキ 写真 H-001	株周 M4.3m(0.5m 2008)	7m	茨城県銚田市縦山	市
A	曹源寺のヒサカキ(北幹) 写真 H-002	株周 M2.35m(0.3m 2014)	4.6m	山形県鶴岡市鼠ヶ関字横道	県
A	〃 (南幹) 写真 H-003	M2.2m(0.3m 2014)	5.3m	〃	県
A	農業技術センターのヒサカキ 写真 H-004	株周 M4.22m(0.2m 2012)	5m	神奈川県平塚市上吉沢 1617	なし
B	論田のヒサカキ 写真 H-005	株周 M3.8m(0.3m 2009)	4m	富山県水見市論田	なし
B	伊勢神社のヒサカキ 写真 H-006	株周 2.4m(0.2m 2007)	4m	石川県輪島市石休場町	なし
B	渡辺家のヒサカキ 写真 H-007	不明	不明	茨城県稲敷郡阿見町大形	なし



写真 H-001

日本一のヒサカキ

もみやま  
縦山のヒサカキ

地上0.5mでの株周がM4.3mもあり、成長の遅いヒサカキでは希有な存在である。地上0.7mで3分岐する樹形で、分岐幹はすぐに再び分岐し、全体として8分岐に見える。中心に空洞がある事から、主幹はすでに枯れたようだ。幹は斜上し、枝先は地面に垂れるように広がる。周囲は畑地で、庚申塔のある塚の上に立つことから、標木として守られてきたようだ。ちなみに巨木DB 幹周6.3mは、分岐幹の合計周。(下写真・全景)





▲写真 H-002

曹源寺のヒサカキ(北幹)

裏庭に2株ある内の大きい方で、根元で分岐しているが、1.5mで融合する。古木の風格が漂う希少なヒサカキである。



▲写真 H-003

曹源寺のヒサカキ(南幹)

北株より一回り小さいが、こちらは珍しい単幹樹である。しかも、主幹は波打ち、こちらも古木の風格が漂う稀に見るヒサカキである。

▼写真 H-004

農業技術センターのヒサカキ

広い構内のCブロックの角にあり、根元で7分岐する。枝張りは東西14m、南北10mの壮大なヒサカキである。





▲写真 H-005

ろんでん  
論田のヒサカキ

論田集落のはずれ、旧荒屋家墓所にあるもので、根元で数分岐している。



▲写真 H-006

いせ  
伊勢神社のヒサカキ

本殿の左手際にあり、根元で4ぶんぎしている。それぞれの幹周は0.76m、0.84m、0.86m、1.08m。



◀写真 H-007

わたなべけ  
渡辺家のヒサカキ

正確な情報はないが、画像で見る限り、かなりな巨木であろう。(写真・Web画像)

# 11-H モッコク(木斛)の巨木 ツバキ科モッコク属 Ternstroemia gymnanthera

## ■モッコクの巨木評価基準

- A 幹周おおむね4m以上の単幹樹、同等評価のモッコクの巨木。
- B 幹周おおむね2~4mの単幹樹、同等評価のモッコクの巨木。
- C B評価以下のモッコクの巨木。

## ■主なモッコクの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	中山寺のモッコク 写真 M-001	M3.84m(1.3m 2012)	15m	三重県四日市市南小松町	なし
B	妙行寺のモッコク 写真 M-002	3.4m	19.7m	埼玉県さいたま市中央区鈴谷4-15-2	県
B	川棚三恵寺のモッコク 写真 M-003	3.1m	15m	山口県下関市豊浦町大字川棚	県
B	清水大師堂のモッコク 写真 M-004	2.85m	18m	兵庫県川辺郡猪名川町清水	県
B	本覚寺のモッコク 写真 M-005	2.7m	11m	山口県宇部市西岐波字寺里 5579	市

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	佐倉城址の夫婦モッコク 写真 M-006	2.6m	11.6m	千葉県佐倉市城内町 佐倉城址公園	県
B	馬蹄寺のモッコク 写真 M-007	2.5m	8m	埼玉県上尾市平方 2088	県
B	長徳寺のモッコク 写真 M-008	M2.4m(1.2m)	9.5m	香川県丸亀市本島町笠島 484	市
B	真光寺のモッコク 写真 M-009	2.2m	15m	岡山県真庭市久世 1453	市
B	山崎八幡神社のモッコク 写真 M-010	2.0m	13m	兵庫県宍粟郡山崎町	県
C	海宝寺のモッコク 写真 M-011	1.45m	4.5m	京都府京都市伏見区桃山町正宗	なし



◀写真 M-001 日本一のモッコク

ちゅうさんじ  
中山寺のモッコク

中山寺と書き「ちゅうさんじ」と読むこの寺は、真宗高田派の寺院で、モッコクの巨木は本堂裏手、建物に接するように立つ。中山寺再建当時から存在したと記録にある事から、樹齢300年以上になる。

モッコクはツバキ科の樹木で、海岸に近い山地にあり、千葉県以西の太平洋側に分布する。巨木は珍しく、ほとんど幹周2m程で、3mを越えるものは珍しい。

中山寺のモッコクは、2012年の計測で幹周M3.84m。現在知られているモッコクでは日本一である。地上2mで大小4分岐し、幹周2m程の分岐幹が2本、1.5m程が1本、0.5m程が2本立上がる。根元は広がり、皺が多く、堂々とした古木の風格がある見事なモッコクである。



◀写真 M-002

みょうぎょうじ  
妙行寺のモッコク

(写真・谷田元彦)



◀写真 M-003

かわたなさんねじ  
川棚三恵寺のモッコク

(写真・Web画像)

写真 M-004▶

しみずだいしどう  
清水大師堂のモッコク

(写真・Web画像)





▲写真 M-005  
ほんがくじ  
本覚寺のモッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-006  
さくらじょうし めおと  
佐倉城址の夫婦モッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-008  
ちやうとくじ  
長徳寺のモッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-007  
ばていじ  
馬蹄寺のモッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-009  
しんこうじ  
真光寺のモッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-010  
やまざき  
山崎八幡神社のモッコク  
(写真・Web 画像)



▲写真 M-011  
かいほうじ  
海宝寺のモッコク  
伊達政宗手植えのモッコクと伝えられる。  
(写真・Web 画像)